
Kame**を**出せ！！

窪まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Kameを出せ！！

【Nコード】

N2048Z

【作者名】

窪まり

【あらすじ】

遠い未来ではない22世紀。人類は人工知能システムにより極限的な管理社会。犯罪も貧困も失業もない社会が実現。舞台は北米南部の共産主義国家・テキサス共和国。より国民を効率良く管理する監視アンドロイドが8億体。プライバシー皆無の社会。科学は人工知能コンピューターによって加速度的に進化し、人類は思考することと労働を忘れ娯楽に没頭することで人類の存在価値が失う。そして人類はアンドロイドたちの家畜化へと移行する。

男の象徴を不特定多数の女性に見せられる

そんなに遠くない未来、22世紀初頭のテキサス、ポストヒューマン社会の超管理社会になり全体主義国家になった。犯罪・ホームレス・生活保護者が皆無の社会。自由と引き替えであった。個人の政治的自由と引き替えに平和で貧困がない社会を人々が受け入れた。犯罪も貧困もない社会だからテキサス共和国の人口は3億5千万人に膨れあがった。

だが日本の2倍の面積があり、ほとんどが砂漠で平地なので、3億5千万人の人々が住んでも、なんともない。かつてアメリカ合衆国があったが、21世紀中期に合衆国が分裂し、それぞれの州が独立し、21世紀中期にテキサス共和国が建国された。

そして一党独裁国家としてテキサス共和国は発展した。キューバを除いたアメリカ大陸初の共産主義国であり、ソビエト連邦よりも、遥かに厳格な管理体制のため、その代償として失業率0、生活保護世帯0を実現した。当然、日本の社会にあるような「ひきこもり」も貧困も存在しないのである。

ジョン・スミスというアフリカ系の人、ロボットカーに乗っているとき、日本語で「チ コ切って」と英語圏では意味不明で言葉が聞き取れない歌がパトカーから聞こえてくる。

とても訛った英語で「ソコノ、クルマ、止メ ナツサイ！」と警告し、警報を鳴らした。

「ロボットカーだから、絶対に交通違反をするわけがない。なぜ止

めなければいけないのだ」と疑問に思った。

「俺は何をしたというのか？」と黒い顔をしたジョン・スミスは叫んだ。

警察管「イイカラ。イイカラ。」と訛った英語で答えた。訛り酷いので日本人が話した英語よりも聞き取りにくい。ルイジアナ訛りを酷くした英語なので、フランス語みたいである。

警察管「K a m e 出せ！！」

ジョン・スミスは、免許書と身分証明書だと思ってだしたら警官は「チガウ！オマエ、よく聞ケ！ズボンノ、チャックヲ、オロシ、パンツ脱イデ、アレヲ 見セロ」

ジョン・スミスは、「すいませんが、もう一度、ゆっくり言ってください。あなたの英語は解りにくいですから」

警官は繰り返し、ゆっくり言った。

そして、ジョン・スミスは言われた通りに、ズボンを下ろし、パンツを下ろして、男の象徴を警官に見せた。

警察官「Oh 立派ナ モノ ダナ！感心シタ！デハ、写真ヲ撮ル」

中判デジタルカメラ（画質1億画素）で、ジョン・スミスの男の象徴を撮影し、F a e o o k に強制的に、ジョン・スミスの男の象徴の画像を載せた。

テキサス共和国では、国民を管理するために、F a e o o k 登録が義務つけられている。それは産まれたばかりの赤ちゃんから

120歳以上の高齢者まで、そして超長期の刑期を受けている受刑者にも義務つけている。それにアクセスする端末は全ての国民、3億5千万人に無料で配布されている。Face lockには住所と電話番号までも登録義務されている。

そもそも、軍に服役中は、毎日のように軍曹から、男の象徴を見られていたので何とも思わなかった。そして、警察管は携帯端末でジョン・スミスの収入や出費などのデータとか、海外渡航歴などを調べた。要するに抜き打ちで、警察管が国民を管理するために、テロリストや反体制派・政治犯を見つけ出す作業の一環である。

警察管「ジョン・スミス 24歳 独身。君ハ、アト4年以内ニ、ケツコン シナイト 強制労働ノ刑ニ 処スル 十分、注意シタマエ」

で、これで済んだ訳ではなかった。

警察管「デは、女性たちヲ呼ブ」ジョン・スミスは聞き取れなかった。

もう一度、警察官が言ったことを聞くと、びっくりした。女性に男の象徴を見せるとは、いくらなんでも恥ずかしい。

モヒカン刈りの女性、顔と頭全体を銀色に塗りつけた女性がいて、目にはゴーグルをつけているので、まるでウルトラマンみたいだった。

数名の異様な恰好をした女性たちが、ジョン・スミスの周りに集まった。さまざまな人種の女性たちが取り囲んだ。

ひとりの女性が、ジョン・スミスの男の象徴に口を入れたとき、「この男、フ ラするほど価値はないわ。収入は最低限だから、あれが立派でも萎えたわ」と口から男の象徴を出してしまった。「最低限の生活をしているだけ。学歴もたいしたことないし、仕事の成績も低いわ」と、人を軽蔑したかのように笑った。テキサス共和国では男性の象徴の中に、個人情報チップを埋め込み、あらゆるプライバシーのデータが載っている。

ジョン・スミスは、警察管に抗議した「こんなことをするなら、国民の安全のために、もっとテロリスト対策を強化して欲しい！特にアラブ系外国人移民を厳しく取り締まるべきだ。私はれっきとしたテキサス共和国市民だ！」

警察管は「デハ、キサマ、テキサス共和国国家 最後まで、歌えるか？」

下半身裸になった、ジョン・スミスは長いテキサス共和国の国歌を、最後まで正確に歌った。集まった異様な恰好をした女性たちも拍手して「テキサス共和国万歳！」と叫んだ。

超高速バスにのるジョン・スミス

テキサス共和国では、かつては新幹線構想があった。だが広大な土地があり、新幹線だと自爆テロリストによる被害が及ぶので頓挫した。そのかわり片側8車線の超高速バス専用道路が作られた。

バスの場合、列車よりも輸送量が少ないが、仮にバスの中にテロリストが自爆しても被害は最小限に抑えられる。電動式バスで最高速度360Km/hまででる。

バスは人種別、宗教別、または性別ごとに乗車する。

ジョン・スミスは穏健のプロテスタントの信者であるから、比較的監視は緩やかだが、乗車するとき、男の股間にある情報チップにセンサーが感知し始めた。バスが走り出すと、荷物検査が始まる。バスには警察管が2〜3名乗車しており、透視スキャンで怪しいモノがないか調べるのである。当然、爆発物があったら、終身刑である。

だから、テロリストではないのに、超小型の爆発物を知らぬ間にポケットに入れられるという、ひどいいたずらがあるので、ジョン・スミスはポケットは使えないように全て縫い合わせていた。

バスに乗るときは、ポケットを縫い合わせた、つなぎを着て乗るのである。

バスは最短で1分間隔で発車するので、新幹線よりも不経済である。運転手と乗務員2名、そして警察管が3名で監視しているから、人件費がかかりすぎるので高速バス公社は常に赤字である。

なんどもジョン・スミスの股間にセンサーが来るので、しつこいと思っただ。

ジョン・スミスは「欧州や日本のように新幹線を作れば、効率良いと思う」と考えたが、その考えは政治犯的なので、超高速バス網の良さを、タブレット端末を渡されたときにレポートしなければならぬ。だから間違えても政府のやり方に批判的なレポートを書くことは社会的な死を意味している。

まして比較的穏健なプロテスタント信者が乗るバスでも警戒が厳重だから、イスラム教徒が乗るバスの場合は、想像以上に時間がかかる。だから発車するまで4時間以上かかるのが当たり前である。

バスは猛スピードで走り、その間、テキサス共和国のすばらしさをアピールするビデオを見せられ、乗車している客に、テキサス共和国の国家を、みんなで歌わされ、共産主義の素晴らしさを説明する車内後援会などが車内で行われる。

そろそろ終点に到着するときに、超高速バスの感想レポートを書くように支持された。

ジョン・スミスは、毎回、同じことなので、前回とは、ちょっと文章の内容を変えたレポートを提出した。

終点に到着したとき、数百人の女性たちがデモをしていた。デモも政府にたいして反対するものは厳禁だが、政府にとって建設的意見なら容認される。

武装した警官がデモ行進を見守る。デモの内容は「もつと監視体制を強化しろ!」「監視アンドロイドを全ての国民に!」というスロ―ガンがある。アンドロイド製造公社では、3億5千万人分の個人監視アンドロイドを製造することは、短期間で国内生産では不可能であるから、ロボットのメツカ、日本などアジア諸国から受注生産をしている。ましてテキサス共和国では個人監視アンドロイドを製造し、それを無料で一人一人配布させるのは、増税につながる。

失業・犯罪・ホームレス0の社会でも、天文学的な財政赤字はどうにもならず、結果的に消費税・所得税増税しざるえないのである。

家畜化する女性　まるで養豚所のようなレストラン

テキサス共和国から革新的な農業技術は無償で全世界に輸出したため、たとえば地球の人口が250億人以上でも食料不足に陥らないのである。

ただし電力エネルギーに関しては、核分裂による原子力に頼るしかない。テキサス共和国に何百万台の風力発電施設があり、広大な砂漠に太陽電池パネルが地平線の彼方まで延々とあるが、建国初期、政府は原子力の使用を制限したため、計画停電や極端な節電のため社会が混乱した。政府への批判をかわすため原子力発電を一気に数十カ所も作り、電力を安定供給できるようになった。22世紀になっても核融合発電は実用化できない。月面からヘリウム3を採取しなければならぬが、宇宙開発先進国、中国やインドに独占されている。宇宙から資源を調達するのはコストに見合わないのである。かつて宇宙開発をリードしていたアメリカ合衆国も存在しない。またロシア連邦は分裂して、小さな国々になり、長年、宇宙開発は停滞していた。

ジョン・スミスがバスターミナルを降りたとき、60分コースのバイキングレストランに立ち寄った。（料金は日本円で300円という値段で食べ放題ある）

バスターミナルには、まず痩せた女性、スタイルが良い女性は皆無であり、みながふくよかでウエストが太い女性ばかりであった。その上、スキンヘッド、モヒカン刈り、丸坊主であるのが普通であり、

ジョン・スミスも女性というのは、丸坊主頭かスキンヘッドが当たり前だと思った。

ジョン・スミスもスキンヘッドで頭の横に、黒い肌が目立つように白い文字で自分の名前と国民番号が刻印されていた。

ジョン・スミスは日本文化や日本語に興味があり、日本文化会館にアニメ映画を観に行こうとした。

国营北米アニメーション公社があるが、安易なハッピーエンドに勧善懲悪なストーリー作品など観ていて眠くなるだけである。とてもつまらない作品しか作らない。それに比べて20世紀後半から21世紀の日本のアニメは、おもしろい作品が多い。アニメもひとつの文化であり、芸術でもある。

そしてジョン・スミスは、バイキングレストランに入ると、食べ物に飲み込むように食べる、ふくよかな女性たちが、バクバク食べていた。まるで養豚所のような光景だった。

60分以内で日本円で300円。ただ同然の安さである。缶コーヒー13杯弱の値段で食べ放題なのである。

人類の少子化を防ぐには、農業の革新的な改革が必要であり、地球の人口が250億人でも対応できるくらいの食料を生産が開発される必要ができた。人類の少子化のために無制限に増える人口に対応させる必要があった。21世紀の初期の不況問題、温暖化問題など、あらゆる諸問題に対処するためには、強力な権力が必要となり、結果的には巨大政党による一党独裁体制で乗り切るしかなかった。

そして頻繁化するテロ問題に対処するために、個人の財産と命を守

るために、ほとんどの人は超管理社会を受け入れてしまった。結果的にはテキサス共和国は共産主義国家になり、きびしい独裁国家と なってしまった。だから22世紀の社会では民主主義「偶衆政治」と みなされるのである。民主主義は過去の産物とみなされた。

だから結婚すると政府から、日本円で500万円が配給され、約1年間の有給休暇が支給される。そして、子どもを産むと出産費、そして養育費なども自治体が出してくれるので、人口増加対策の結果、テキサス共和国は22世紀初頭で3億5千万人になった。

だが、22世紀の女性は現代人（2010年代）の視点で観ると異様であり、スタイルもとても悪いのである。その時代には美人とか不美人という概念がないのである。

カルチャーギャップ 日本のアニメを観て

ジョン・スミスは、政府が支給したスマートフォンにイヤホンを接続し日本語のラジオ番組を聴いていた。笑福亭鶴光のオールナイトニッポンを聞いていた。日本語の発音になれるため、言っていることは、ほとんど理解できなかった。日本語が機関銃が鳴り響く音のように聞こえた。

それが下品でエッチな内容だとは思わなかった。22世紀にもオールナイトニッポンの録音したテープが奇跡的に保管されていたのである。音質が劣化しているので、修復して配信しているのである。

日本人にとっては変な関西弁であり、きたない日本語なので日本語教材では劣悪であるが文化的には貴重なモノである。

日本文化会館に入るとき厳重な監視体制があり、アラブ系民族は排斥され差別されている。当然、差別問題はマスコミは一切取り上げない。政府は全ての民族、宗教に差別しないというが、現実には「公共の福祉に反しない限り」で信仰の自由と民族・人種の差別をしないと言っただけである。

彼らアラブ移民は、「公共の福祉」に反する危険人物とみなされるので、まるで犯罪者のように、厳しく管理されているのである。アラブ＝テロリストという発想があるからである。

だから多くのアラブ系移民は、テキサス共和国は地上の楽園だと思っても、差別され続けるから西欧に移住したり、もとのアラブ諸国に戻ってしまうことが多々ある。

そのことはマスコミでは全く報道されない。

笑福亭鶴光の「カメだしな」をジョン・スミスは意味も解らず『kame Dasina』と真似した。要するに、ズボンのチャックを開いて、男の象徴を見せなさいという意味である。

ジョン・スミスは、それを聞くことで人格的評価が落ちることを知らない。個人情報収録するチップに、下品な内容のラジオ番組を聴いたことが記憶され、後ほど職場や地域社会で、人格の品位が低くみられるのをスミスは知らないで聞いている。

どの社会でも知らないことは損をするのである。

そして日本文化会館に入るとき、ジョン・スミスも犯罪者のような扱いをされた。まず肛門にガラス棒をいれられ、体内に危険なものや違法なものがないか検査され、全身をスキャンされる。自分が産まれる前から、それが当たり前だった。警察管の前で、全裸になりカバンの中を徹底的に検査され、そして手の中にある貯蓄チップ（キャッシュカードみたいなもの。または電子マネー）で、門のここ

るで手を置き、指紋を採取することで、やっと入る事ができるのである。

要するに国民の4人に一人は警察管であり、仕事がなかなかありつけない人、65歳以上の人などが警察に就職して、国民を監視するのである。もし万が一、不正行為、犯罪があれば、それに関わった警察管も犯罪者として罰せられる厳しい社会である。

やっとの思いで日本のアニメを観ることができる。で、日本のアニメはミニスカートのヒロインが多く、痩せていて肌が白い。テキサス共和国の女性は、ほとんど太っており、大部分がヒスパニック系かアフリカ系がほとんどであり、むしろアングロサクソン系は少数派である。肌は黒いのが常識なので、白人が顔を黒く染めることが良くあり、スキンヘッドにする。

テキサス共和国では、意外と英語が話せない人が多く、また英語が正確にしゃべれない人が大部分であり、ジョン・スミスのように流ちょうに英語が話せる人は少数である。大部分がスペイン語を母国語にしており、かなり訛った英語を話すから、お互いのコミュニケーションが取りにくいのである。

ジョン・スミスは日本のアニメのキャラが、髪の毛が黄色い、目が青だったり緑だったりするから、日本という国は、もしかして純粋な白人国家ではないかと思った。それとも当時のヨーロッパを舞台にした物語だと思い込んだ。

そしてミニスカートをみて、ジョン・スミスは腰巻きが短いエプロンだと思った。

だから脚を出しているとは思わず、肌色のズボンだと思い込んだ。また、ピンクや緑色の髪の毛で表現されているが、ジョン・スミスは100年前の女性は有髪でカラフルな色彩で髪の毛を染めていたと思った。

日本のアニメーションが上映されているとき字幕はスペイン語であり、ジョン・スミスはスペイン語がほとんどわからないから、台詞が理解できなかった。

頭の中で適当に台詞を想像するしかなかった。片言の日本語しか話せない。日本語が機関銃のように聞こえるだけで、せめて英語に吹き替えしたものを上映して欲しい。それができなければ英語字幕で上映して欲しいと思った。

アニメの美少女たちは、例外なく皆痩せているので、100年前の日本は深刻な食糧難だと思った。そんな時代に明るく生きる彼女たちに感銘した。

大きなカルチャーギャップがあるのである。

22世紀のブルースリーは、「ペニスハンター」

政府が支給したスマートフォンで電源を切ることができない。毎日、200件ものメールが来るが、大部分がホモからの誘いのメールである。見てみると10歳の小学生から70歳過ぎの年配まであり、ジョン・スミスが ace ookで警察管に強制的に写真登録（それもジョン・スミスのヌードや下着姿ばかり）が載せられており、自分の意志で削除できない仕組みになっている。

22世紀の社会では女性はグロテスクになり、ウエスト120センチ、体重100キロが標準なのである。結婚をするのは、28歳まで結婚しないと強制労働の刑に処せられる。その支給金と1年間の有給休暇が目当てなのである。

次はリアルな3DCGのアニメでブルースリー主演の映画である。なぜか舞台は東京になっていて、悪者と戦い勝てば、悪者のペニスを切断するのである。日本語で「命が欲しければ、ペニス切らせろ」というのが決まり台詞である。

出てくる女優は、デブでガン黒で髪の毛が金髪ばかり。そのへんが22世紀と現代（2010年代）との大きなギャップである。

で、アニメ映画を見終わった後、ジョン・スミスは回転寿司をたべにいった。

回転寿司は完全オートメーションで、米と材料を置けば自動的に寿司製造ロボットが作るのである。

海苔巻きを受け取ったとき、周囲の海苔を取って食べたり、エビの尻尾まで食べるのである。

要するに寿司の食べ方がしらないのである。料金は日本円で3000円だが、20皿以上食べないと、逆に追加料金が取られるので、ジョン・スミスは35皿食べた。

で、デモが要求するアンドロイドとは人間そっくりなロボットのことでなく、「禁断の惑星」にでてくるロービーみたいなロボットのことであり、頭のなかにタイプライターが自動的に動くロボットのことである。北米の人たちは、人間そっくりなロボットは不気味であり宗教的に忌み嫌うので、ロービーや、「宇宙家族ロビンソン」にでてくるロボットみたいなものを好むのである。

それを2年以内に8億体を作るといふ政府の構想があり、そして、ロボットによって個人を徹底的に監視するのである。

無断で家捜しをする警官

ジョン・スミスが外出するとき、頻繁に家捜しする70代の高齢警察官たちが、勝手に人の部屋にはいり、押し入れの中を家捜しするのは、危険物を隠してないか確認するためであった。

それを見たジョン・スミスは「せっかく片付けた部屋を散らかせないでくれ！なにひとつ危険物が無い」と言った。

70代の高齢警察官たちはヒスパニック系なので、スミスがいった言葉が良くわからず「あーん？」と言うだけで、押し入れの奥まで徹底的に危険物、不道德なモノ、反政府的な書物などないか確認した。

ジョン・スミスは、ゆっくり解りやすい英語で言った「よく聞いてくれ。お願いだから。」「俺は何もやましいことはない」高齢警察官は耳を澄まして、片言の英語で「モウ 一度 言エ」と言った。ジョン・スミスはスペイン語が話せないし、聞いても理解できないから、お互いに意志疎通ができない状態である。

スミスは英語で繰り返し、警官たちに同じことをゆっくり言った。

半分、あきらめたとき、部屋は散らかり放題になり、70代の高齢警官たちは、片言の英語で「脱ゲ！」と言われて、下半身を裸にした。そして中判デジタルカメラで、下半身が裸になったジョン・スミスの写真を撮り、国民を管理する Face Book にアップロードした。

70代の高齢警察官たちは、卑猥な歌詞の歌を歌いながら、去って

行った。

そして政府が無料で配布したスマートフォンには、メールがたまり、ほとんどがホモからのお誘いのメールだった。

3種類の女性たち

テキサス共和国では、女性は3種類の階級に分かれている。

小学生のときに何度も知能テストを行い、就学無意味と就学義務・エリートコースの3つに分かれ、就学無意味に属する者たちは、文字通り学校に通う必要もないし、28歳まで労働を拒否される。だが、結婚を禁じられており、28歳から死ぬまで、強制労働の運命が待っている。だから、バイクング形式のレストランで、毎日、5回も食べ放題であるから、体重は平均100キロあり、スキンヘッドが義務つけられている。文字が読めない女性たちである。当然、宗教も信じる自由がないのではなく、宗教を選べても文字が読めない（本が読めない）書けないから、宗教の教義そのものが全く理解できないのである。読書ができないからテレビを一日中観ているのである。テレビを観ることと食べることしか娯楽がないのである。だから、ある女性の場合は、あえて世間から白い目でみられるのを承知の上、知的障害者を装って、政府から福祉を受ける女性もいるのである。

就学義務とは、比較的知能指数が高いが、主に政府にとって都合の良いもの、政府から見て建設的な意見と思えるものなどのデモ活動を行う女性たちである。文字も読め読書時間が一日16時間であり、一日のほとんどを図書館で過ごし、突発的にデモ活動をするのである。また、自分の考えは神の教えだと思つのであるから、自分の考えを人に強要する癖がある。この階級も生涯独身者が多い。

エリートコースとは、小学校から大学・大学院まで通える本当の意味で知的な女性たちであり結婚をする義務があり子どもを最低でも（健康なら）5人以上産む義務があるが、養育費、子育てを支援される政府から最も優遇されている階級である。政府は良い母親になれる知性が高い女性だけしか結婚が赦されていないのであるが、それでもテキサス共和国は人口が急激に増えているのは、エリートコースの女性たちが急増しているからである。

テキサス共和国の男性も同じように3つの階級に別れており、ジョン・スミスは英語が正確に話せる読み書きができるのでエリートコースである。

テキサス共和国では国民の85パーセントがスペイン語しか理解できないが、公用語はアメリカ英語である。アメリカ英語は高貴な言語とみなされているからである。英語が話せても、正確にスペルが書けないため、文字が書けない。だから、スペイン語なら読み書きが自由に行ける人が大部分であるから、ジョン・スミスみたいに英語のスペルが正確に書けるだけで政府から、優遇されるのであるが、それでも厳格な監視下に置かれるのである。（テキサス共和国は、ほとんどが黒人やヒスパニック系で、白人は極少数である）

その意味で、知能指数や学習能力によって、待遇が大きく異なるので、全ての家庭において子どもの教育に力をいれているのである。

近所の人に、ペ スを見せられる

ジョン・スミスは日本語で「トン トン 隣の、隣組」と歌い近所のスペイン語教師に通うとき、近所の人から、「スミスさん、いい股間してますね」と言うのが挨拶だったが、「スミスさん、ちょっとアレを出して欲しいのだが。立派なものを・・・」といって、ズボンのチャックを開け、自分の男性の象徴を出した。

「立派なモノですな」と感心し、ペ スの先端に内蔵されているチップの情報を、端末で確認した。

「最近、日本文化会館にいったアニメを見に行ったのですね。この国にはプライバシーという」と言ったとたん、不味いと思いい言葉を止め、「お寿司も美味しかったでしょう」とニコニコしながら話しかけた。

「最近、個人監視アンドロイドが増えて来ましたね。そのぶん家事もやってくれるから生活も楽になるし」といって近所の人はずっと行った。

イヌの散歩をしている個人監視アンドロイドと一緒にいる人も急に増え始めた。

公園の近くにいくと、大型テレビモニターがありスピーカーで、共産主義の素晴らしさをアピールする放送があった。

「そもそも20世紀に共産主義が失敗したのは、科学技術が未熟過ぎたのと、管理能力不足が原因で、それが邪悪な政治家だらけにしたから失敗したのであって、厳格な管理体制と高度の科学技術があ

れば、共産主義によって理想的な社会がつくれるのです」と英語とスペイン語と交互に放送した。

「個人の生活でも、自己管理ができる人は出世できるし、収入も多いのと同じことなんです。要するに個人情報をいかに管理するかによって、世の中が良くなるのです。だから自殺も犯罪も貧困もない社会ができて」という共産主義の素晴らしさを宣伝する放送があった。

そして、モニターの前に集まった市民は、英語でテキサス共和国の国歌を歌い「テキサス共和国万歳」と叫んだ。

男性は、お互いにペ スの中にあるチップを端末で確認しあいながら去っていた。

そして、走ってスペイン語教室に向かうジョン・スミスの姿があった。

共産主義のゴキブリを駆除したから地上の楽園ができた

男の恥部であるペニスに個人情報チップを埋め込むのは、徹底的に押し入れの隅から隅まで、個人のプライバシーを調べ上げるという象徴である。

20世紀の共産主義は、散らかりすぎた不潔な部屋みたいなものであり、そこにゴキブリが自然と発生するように、邪悪な政治家が権力を独占するから、国民の不満が爆発して、結果的に民主主義革命を引き起こすのである。

だが政治に不慣れな民衆が選んだ指導者も、実力不足であり、貧困問題が解決できないから、結局、共産主義時代を懐かしむようになるので、もとの木阿弥である。

だから世界的な不況、地球環境の破壊、食料の偏った増産体制により、アフリカに飢餓があるのは、科学技術が未熟さを認識していない。自分が見えていない。自分の未熟さを自覚できないからである。

たかが人類初の宇宙飛行をしても、その応用技術が生かせないのは、社会全体の自己管理能力がないからである。

全く犯罪がない社会を実現するには、徹底した監視社会にするべきである。

だから、押し入れの奥の奥まで調べ上げるといふ監視社会にするには、高度な科学技術が必要である。

で、勉強がやる気ない人、働く気がないひとは、就学する（義務教育が）必要がないので、長時間労働を強制させられるので、それが嫌ならやる気を出してもらいたいのである。

そのような人には就学、すなわち義務教育は必要無く、そして長時間労働が楽しく幸せに感じるように脳内にチップを埋め込み幸福感を感じる部分を刺激させれば、第三者からみれば悲惨に見えても、本人は幸福なのである。

そうなりたくなければ「就学不要」という烙印を押されないように、親が子どもにきちんとしたしつけを幼児期に行うべきである。

20世紀の共産主義が失敗したのは、科学技術が未熟過ぎたこと、情報化社会ではないのに、いきなり理想のみを追求しても、いくらでも抜け道があり、結局、自己管理ができないから不潔な社会になり、その結果、ゴキブリ（悪い政治家）の天国へと至らせるのである。

20世紀は科学の時代ではない。たんなる傲慢な時代である。

ペニス・マニアの10歳の少年

スペイン語教室では、ほとんど男性でさまざまな人種や年齢が集まる。

語学の習得で有利なのは子どもである。

テキサス共和国の国民の80パーセントがスペイン語を話し、アメリカ英語が話せるのが約15パーセントしかいないので、政府の政治宣伝ではスペイン語がほとんどである。ましてテレビやラジオ放送もスペイン語が大部分である。

だから15パーセントの英語しか理解できない国民は、スペイン語学校に通うのが普通である。

で、スペイン語の授業が終わったとき、10歳の少年がジョン・ミスに言った「おじさん。良い股間しているね。おじさんのペニスを見せてよ」と無邪気に言うので、誰もいないところでチャックを開けて、ペニスを見せた。それを高画質のデジカメで撮影して、「おじさんのペニスは標準よりも大きい。どうしたら、おじさんみたいな立派なペニスの大人になれるの?」と質問しても、答えようがなかった。

そして、全ての国民に無料支給するスマートフォンは、ペニスの先端にチップを埋め込んだメモリーを読み込み、約3日前までの情報を少年に知ることができる。

「おじさんは、日本のアニメ見て寿司を食べたの。なぜ日本語の勉強をするの?」と質問して、そして「このあいだは70歳以上の警察管が無断で家捜ししただね。押し入れの奥までだね。まだ良い方だよ。ぼくんちの場合は、天井の裏や柱の下まで家捜しされたよ。」

完全に何も無いのに」と言った。

ジョン・スミスは日本語が、挨拶程度しかできず、日本の歌を歌うことや、日本のアニメのブルーレイを見て、日本語になれるように努力していることを話す前に、少年はスマートフォンで、そのことを知っているのである。

少年は「おじさんのペニスは黒人の標準サイズより少し大きい。ほとんどペニスコンテストがあるからでたら。いろんな人がいるから」と無邪気に言い、そして少年は自分のブログにペニス・コレクション・ブログを立ち上げたことを言った。当然、だれのペニスなのか、その人の顔写真、名前、住所、電話番号・履歴・職業まで事細かに記録されている。

男性ペニスは、いろんな形があり、人種によって平均的な大きさが異なり、「ペニス・コレクション・サイト」は別にエロサイトではなく研究サイトであるから政府も認める。誰でも見ることができるのである。

そしてお互いに a c e o o k に「友達リンク」を登録した。

共産主義社会で理想的な社会を実現するには、自己管理ができない人、知能が比較的に低い人に対して、国や自治体が、その人によって自己管理する社会でなければならぬ。貨幣というものは、既に存在しない。全て電子マネーで買い物をするのである。

民度の低い社会は汚い台所みたいなものである。そこにゴキブリが発生するように、民主的な選挙をしても悪意ある政治家が権力を握ってしまうからである。その結果、国民が苦しい生活を強いられるのである。

だから、汚い部屋（未熟な社会・国民の政治の無感心と無知・低レベルなテクノロジー）では、ゴキブリをいくら駆除（革命を起こ）しても、別のゴキブリ（悪い政治家や官僚）がでてくるから、きりがない。誰もが幸せになれる社会が作れない。

完全に清潔な環境（成熟した社会・高いテクノロジー）にするべきなのである。清潔な部屋とは、成熟した社会で、高いテクノロジー社会による完璧な管理社会のことである。

テキサス共和国の一般家庭では、「就学無意味（義務教育免除）」という28歳以上の文盲の女性たちが、あらゆる家庭に来ては、週に一度、清掃作業を行う。だから家庭からゴキブリが絶対にでないのである。

いや、ゴキブリは希少な昆虫であり、一匹でもゴキブリがいたらニュースの記事になるのである。一世帯に必ず100〜400台の監視カメラや盗聴マイクがあり、うかつに政府に対する不満の独り言が言えないのである。

で、さらに管理体制を強化するために、個人個人を監視するロボットを無料配給するように要求されている。

だから、10歳の少年は、一度もゴキブリやカマドウマ、それにハエなどの昆虫を見たことがないのである。ジョン・スミス（24歳）

でも、これらの昆虫を産まれてから一度も実物を見たことはない
である。

人類史上、最も清潔な国家、テキサス共和国は、チリひとつ、髪の毛一本さえ道に落ちていないほど清潔なのである。

共産主義者が共産主義社会を批判する

ジョン・スミスは共産主義の素晴らしさをアピールする講演会に出た。

テキサス共和国は建前は、民主共和党という民主党と共和党が合併した反共政党による一党独裁である。気がついたときには共産主義政党になっていた。かつての大日本帝国でも大政翼賛会があったと同じで、左派から極右まで一つの政党に統合した政府なのである。レーニン主義共産主義や毛沢東・スターリン・金日成などの20世紀の共産主義者を強く憎んでいる。

20世紀の共産主義が失敗したのは、資本主義国家群がさまざまな発明をしているのに、共産主義諸国はほとんど技術革新を怠ったために経済が停滞し国際競争力を失ったために、共産主義体制が解体してしまったのである。

で、共産主義者による反共集会が行われ、スターリン・毛沢東・金日成そしてレーニンの肖像画がでると、集会に来た人たちは憎悪の感情を表し、スクリーンにモノを投げつけ、叫び声を出し「共産主義反対！」と叫んだ。

そして、甲高い音の楽器がなると、皆が一斉に立ち、手を胸に当て、静に黙祷し、そしてテキサス共和国の国歌がながれ、英語の歌詞のテキサス共和国の国歌を皆で歌った。

皆は「テキサス共和国万歳！」と叫んだ。

これらの集会に出られるのは英語が話せ、読み書きもできる階級の

みである。
がなじがらめの管理社会でいながら、自分たちは民主主義社会の一員だと思っている。

だがそれ以外の階級市民は、全員文盲であり、毎日、テレビで刹那的な娯楽番組を楽しみ政治に全く無関心であり、それらの階級には選挙権はない。結婚も禁止されている。ただ格別の安い料金で、毎日食べ放題なのである。

キノコ刈りはペニス刈りなのか

22世紀になると、ひじょうにリアルな3DCGアニメが一般的になり、本物の人間が演じているかと錯覚するほどリアルである。

だから、既に故人となったブルース・リーも22世紀の社会のどこかで生きているかのように感じるほど、リアルなのである。顔のしわ一つでさえ忠実に再現できるので、文盲者（就学無意味）階級では、ブルース・リーは東京のどこかに住んでいると信じている人がほとんどである。

集団でブルース・リーを取り囲む悪者たちをカンフーでなぎ倒し、気絶させ、気がついた時に、集団でベツトに縛り付け、下半身を裸にし、「命が欲しかったらペニス切らせろ」というのが決め台詞である。

そしてハサミで、一人一人の悪者のペニスや玉（男性性器）を切断し、それを大きなガラス瓶に入れるのである。これが幼少期から見せられているので残酷には思わず、政府も公認しているのである。

「ブルース・リーのキノコ狩り」という題名があり、シリーズ化されているのである。

映画館を去るとき、卑猥な歌詞の歌を歌いながら出て行くのである。

また、テレビの購入に関しては、テレビほど国民を洗脳する効率良いものはないので、テレビの普及率は100パーセントであり、好

むとも好まざるともテレビを観ることが義務つけられ、文盲ではない身分の人たちは全て、大事な番組を観るように薦められ、感想文を書くように義務つけられているのである。教養番組を観ることも薦められている。

その感想文は当然、政府に批判的な内容を書くことは赦されない。

だが、文盲者（就学無意味）の階級にはレポートを書く必要が無く、（文盲だから書けない）刹那的なバラエティ番組やショウピング番組、アニメやテレビドラマを自由に見ることができる。それは、ほとんどスペイン語で放送されているのである。

就学無意味とは、いじめっ子になるか、いじめられっ子になる人が義務教育拒否され、政府からは強制的に結婚を禁じられているのである。だから一日中テレビをみて、24時間経営のバイキング形式のレストランでいくらでも食べ放題なのである。そのため、深夜・早朝でも歩き回りスキンヘットの肥満女性がレストランに行くので生活はかなり不規則である。だから地理音痴でありカルフォルニアの隣に日本という国がくっついていると信じているから、自動車で日本に行けると思っている文盲者が多いのである。

そもそも、自分の国の位置さえわからないのである。まして、ほぼ全員が地球の周りに太陽が回っていると信じているのだから知識の少なさには驚くものがある。まして自分たちの惨めな境遇を知ることなく一生を終えるのであるから、人権団体も政府の圧力で黙殺されるのである。

またどんなに人気があるテレビドラマでも必ず一年で終了するのは、9月に28歳になったら強制労働キャンプに行かされるからである。人が嫌がる仕事を強要され、成績が良ければ、比較的楽な仕事を

回されるのである。とうぜん文盲者には一生、家庭を持つ権利はないのである。

政府は知性が低い人間が子どもを産んでも、育児放棄したり児童虐待をしたり、家庭内問題を引き起こし、弱いものイジメを支援するから、知性が低い人間からは知性が低い人間しか産まれないから、家庭の崩壊はテロよりも恐ろしいものとしてとらえているので、文盲（義務教育拒否）の人間には、就学の権利も自分の家庭を持つ権利は無いのである。

テキサス共和国では、知性が低い人間はテロリストと同じように社会の脅威とみなされているのである。

その意味で、ほとんどの家庭では教育熱心にならざる得ないのは、義務教育を拒否されたら自分の子どもの未来は無いものになってしまうからである。

24時間遊園地 キノコ(ペニス)の森

文盲者(就学無意味)階級の生活は、28歳までならまるでパラダイスのような環境である。

スキンヘッドに肌を一切ださないという制約があるが、お小遣いが日本円で16万円支給され、24時間営業の無料遊園地でジェットコースター乗り放題であり、毎月、無料食事券が毎月100枚支給され、食べ放題であり学校にも会社にも行く必要がないのである。

だから自分たちほど幸せな人間はいないと思っている。

だが、どうも美味しい過ぎるからおかしいと疑問に思い、いずれ28歳になると人が嫌がる仕事を強要される運命が待っているのだ、それが嫌だから、就学無意味階級にさせられた人たちでも、敗者復活政策がある。

「どうも、この生活、おかしとおもうわ」

「いいじゃない。今さえ良ければ」

「でも28歳になれば強制労働がまっているわ」

「その分、思いやり楽しめば。もしエリート階級に進級したら、頻りにレポートを出すように指示されるし、面倒だし、だから今を思い切りたのしめば」

「わたし、将来のことを考えれば、このままで良い分けないわ。敗者復活試験を受けるわ」

「どうせ倍率が高いから落ちるだけ。今を思い存分楽しませよう。学校に行つて勉強しても苦勞するだけだし」

という会話があり、ある女性は敗者復活試験を受けに行った。

毎月、月末に敗者復活試験があり、特に音楽や絵画の素質・才能がある人は有利である。

記憶力検査とか思考力検査など行われ、いわれたことをどれだけ理解できるか試験されるのである。

また知能がどれだけ発達したか試験するだけではなく、脳内にチップを埋め込み、頭の良さを計測するのである。注射するとナノマシンが脳まで達し、脳細胞の活性化度を計測するのである。

それに合格すると、男女関係なく約4年間の徴兵義務が課せられ、昼間の軍事訓練が終了したら夜間学校で英語の読み書きの勉強をするのである。それから数学、歴史、地理、道徳など社会生活に必要な教育を受ける。だが脱落すれば、もとの就学無意味階級になり、そのまま強制労働の人生が待っている。だから、強制労働を受けたくないため必死になって勉強するのである。

この物語の主人公のジョン・スミスも、実は、元、就学無意味階級であった。

自分の家庭がもてない。結婚も恋愛も禁じられている。28歳まで遊び続けて、それ以降は地獄の日々が待っている。それを考えれば、自分の一生がメチャクチャになるのであるから、何回でも試験を受けに行った。エリート階級に入れば、結婚もできるし市民権がもらえるのである。

日曜日の午後、久しぶりに思い出の場所、24時間経営の遊園地「キノコの森」の近くに行った。

入り口には何人も警官がおり、就学無意味階級のみしか入ることができないのである。

もう二度と、あのパラダイスのような生活はできない。また地獄のような徴兵義務も受けることはない。あるのはテキサス共和国の市民権だけである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2048z/>

Kameを出せ！！

2011年12月14日17時47分発行